

	審議委員 意見	審議会における回答	対応など	計画への反映
1	P29、プラスチック類の分別徹底について、川崎市では、製品プラスチックの分別回収の推進を行っているので、小田原市でも検討していただきたい。	製品プラスチックの資源化については、対策の必要性は認識している。現在は、不燃ごみとして分別して出してもらい、この中から選別し、リサイクルする方法を検討している。容器包装プラスチック、製品プラスチックの両方を分別資源化していく必要があるが、順序を追って検討していきたい。	引き続き検討していきます。	
2	P25、資源化率について、市定義から国定義へ変えるとの説明があったが、P14に市定義については記載があるが、国定義の計算式の記載がないため、追記していただきたい。焼却灰の資源化を含んでいるはずだが、資源化率が下がる理由について伺いたい。	資源化率について、国定義にすると低くなる理由は、資源化量と表現されている数値が、市定義では、資源化処理に回した量であり、この中には不燃ごみで出されたものから可燃性の残渣のサーマルリサイクルされた量も含まれている。国定義では、再商品化されたものになるため、サーマルリサイクルは含まれていない。国定義の説明については、単純な計算式では表すことが難しいため、考え方等の記述をさせていただく。	資源化率の考え方について計画に記載していきます。	P25 第2章 9ごみの減量化・資源化の数値目標に追記しました。
3	大型ごみについて、他市で戸別収集の際に、リユースを希望しない人のみシールにチェックを入れることで、基本的にはリユースを行うという事例があるため、検討していただきたい。	大型ごみについて、シールを貼っていただき各ご家庭に回収に伺っている。回収したものをリユースするかについては、今後検討していきたい。	今後検討していきます。	
4	剪定枝について、回収後に乾燥させ、薪ストーブの燃料にするような事例もあるので、検討していただきたい。	剪定枝の資源化については、市内で資源循環していければというご指摘である。資金をかけ資源化することは、継続が難しいため、地域の中で利用する方法も検討しながら進めていきたい。	引き続き検討していきます。	
5	製品プラスチックの再商品化について、今後検討を進めるとのことであるが、予定がある程度定まっているのであれば、一般廃棄物処理基本計画にも、予定を記載してはいかがか。	一般廃棄物処理基本計画の中ではスケジュールなどは記載していないが、記載方法について検討していきたい。	製品プラスチックの再商品化については、「プラスチック資源循環促進法への対応」として基本方針に基づく施策に新たに追加したものです。具体的なスケジュールは今後の検討となりますが、「速やかな検討が必要」と記載し、スピード感を持って推進するよう明記しています。	
6	可燃ごみ中のプラスチックごみ含有量を把握しているか。温暖化対策の観点から、含有量と総排出量から、プラスチックの焼却量を算出し、これが廃棄物系のCO2として算定しているのではないか。把握しているのであれば、計画に数値を記載してはいかがか。温暖化対策の面からも、プラスチック対策を強化していくために、プラスチック含有量を減らしていくと思うが、その数値を目標化すべきではないか。	含有量については、毎年組成分析調査を実施して把握し、64Pに表を載せている。ここから全体量は把握しているが、対策強化として、目標値等について記載できるかは検討していきたい。	汚れが取れないものなど、焼却処理が必要なプラスチックが一定程度あります。分別を徹底してリサイクル可能なプラスチックの燃せるごみへの混入量を極力なくす啓発をしていきます。現状で、数値目標を設定し進捗管理をしていくことは難しいため、今後研究していきます。	
7	P55に掲載されている、審議会委員名簿については更新が必要。	承知した。	今後記載方法を検討していきます。	見直しの経過を追記していきます。
8	民間企業とともに取り組むべきことは多く、商工会議所と連携することで達成スピードが上がるものもある。民間企業との連携計画もあわせて考えていただきたい。	承知した。	今後検討していきます。	